

円頓寺商店街

(円頓寺商店街振興組合)

愛知県名古屋市

！取組のポイント

積極的に課題に挑戦し続け、近隣地域のみならず、潜在的な外国人観光客の需要を掴み、域外誘客を推進。

取組の背景

住民アンケートにより現状を把握

マンションの建設などにより、周辺人口は増加傾向にあるが、商店街実施のアンケートによると地域住民の多くが商店街をあまり利用していないとの結果が出ている。近隣の小学校が統合により廃校予定であるなど、地域全体の少子高齢化が進んでおり、新たな客層の獲得が急務である。

2014年度に実施した那古野地区地域住民アンケートでは、「飲食店の充実」「人々が集えるスペース」のニーズが高いという結果を得た。また、観光ビジネスを推進するグループのアンケートでは、昔ながらの商店街に海外の方と交流できる場やその土地ごとの風土や文化に触れることを期待する声が多いことを把握した。

店舗の経営者も高齢化している中、後継者がいないなどの理由により閉店する店舗もあるため、空き店舗対策も重要な課題である。

取組の内容

空き店舗などの課題に対して対策を実施

商店街の知名度を向上させ、新たな客層を取り込むため、2013年からパリ祭を実施している。アーケードのある商店街がパリのパッサージュ・デ・パノラマの雰囲気似ていること、町に歴史があること、そしてパリが好きな実行委員メンバーや店主がいたことが、パリ祭を開催するきっかけとなった。組合員店舗でもイベントのために新商品を開発するなど一丸となってイメージ作りに取り組んでおり、2015年にはパッサージュ・デ・パノラマと姉妹提携を行った。

円頓寺 秋のパリ祭



那古野地区の空き店舗対策を行う組織「ナゴノダナバンク」では、まちづくりに適した出店希望者をつなぎあわせる取組を行っている。出店に当たっては、地域に馴染む内装の提案や、新規出店者と地域の商店の方が連携を取っていけるように信頼関係の構築に向けた活動を行っている。その取組の一つとして、1階をカフェ&レストラン、2階をゲストハウスとして2015年4月に再オープンした老舗喫茶店「西アサヒ」では、地元の人々だけでなく、多くの外国人旅行者の利用があり、地域のコミュニケーション拠点となっている。また、名古屋駅と名古屋城に近いという立地を活かしたゲストハウスの整備によって、外国人来街者増加の効果を商売につなげていこうとする動きが出てきている。今後はこれまでの取組を踏まえ、商店街内で買物ができる環境を作るため、商売としての市場性を考えた上で成功できる物販店の設置を図る。

コミュニティカフェレストラン&ゲストハウス「西アサヒ」



取組の成果

空き店舗対策が商店街の組織強化に貢献

円頓寺秋のパリ祭では、これまでの商店街活動では取り込むことができなかった若い年代の取り込みにも成功した。また、各地から集まった個性的な店舗に出会えるイベントとして認知されている。現在もパリ祭の来街者を商店街のファンとして定着させるため、様々な工夫を行っている。

新規出店者が商店街イベントの中心的な役割を果たすなど、空き店舗対策が商店街の組織強化につながる事例も生まれている。新規出店は飲食店が多いため、今後は他の業種の出店も視野に入れている。また、「西アサヒ」が再オープンしたことにより、地域内外からの来街者が増加する中で、今後は「ものづくり文化の道」の中核商店街として地域の特産品などの情報を発信する地域資源のショーケース機能や、新たに商店街に呼び込む外国人来街者をサポートする機能やコンシェルジュ機能の付与も検討中である。

実施体制

女性理事長のもと、組合員だけでなく、有識者、建築家、コンサルタント、地域住民などを交えての勉強会を積極的に行っている。それぞれの専門分野を活かしながら、にぎわい創出イベントやまちづくり活動に取り組んでいる。

名古屋のものづくり文化の発信では、名古屋市とも連携している。七夕まつりなどにおいて、ものづくりの体験ブースを設けるなど、協力体制を築いている。また、当商店街を含む那古野地区は名古屋市から「ものづくり文化の道エリア」に指定されており、理事長を中心とした商店街界隈の女性3人が、歴史ある町並みの四間道や、隣接する円頓寺本町商店街等の素敵な「もの・ひと・こと」を発信するフリーマガジン「ポウ」を発行しているほか、季節のイベントや祭りをエリア内で連携して実施している。

円頓寺 七夕まつり



キーパーソンからのコメント

円頓寺商店街振興組合
理事長 高木 麻里



商店街の未来を考える

空き店舗対策プロジェクトチーム「ナゴノダナバンク」は、財務的な信用のみで入店者を決めるのではありません。「この業種が商店街に必要な」「この店舗跡にはこんな人に入ってほしい」といった点に加え、新しい商店主も地域の人々も快適に過ごせるか、という複合的な視点でマッチングを行っています。

商店街の未来を見据えながら、空き店舗のオーナー達との徹底したコミュニケーションが重要であると考えています。

成功をもう一步先へ

古いお店も商いができ、新しい人も入ってきて商いができるという環境づくりを一番大切にして日々取組を進めています。その中で、閉店した老舗喫茶店「西アサヒ」が再オープンし、今では地域の人々だけでなく国内外の観光客にとっても、大事なコミュニケーション拠点となっています。

今後、中部地区の玄関口である名古屋駅にやってくる外国人観光客に、各地の地域産品を円頓寺で見せ、各地に誘導できるショーケース機能を検討中です。「西アサヒ」の成功は色々な可能性を見せてくれましたが、この成功をもう一步先に進めたいと考えています。

基本データ

所在地	愛知県名古屋市西区那古野
人口	約15万人(名古屋市西区)
電話/FAX	052-551-0197/052-551-0217
関連URL	http://nagosyu.net
会員数	28名
店舗数	28店舗(買回り品小売店9、最寄品小売店1、飲食店15、サービス店1、その他2)
商店街の類型	近隣型商店街
主な客層	会社員、高齢者、観光客(国内)

商店街概要

円頓寺商店街は、圓頓寺の門前町として18世紀中頃から発展したといわれており、1957年に円頓寺商店街協同組合として法人化し、1963年に円頓寺商店街振興組合へ組織改変。名古屋駅と名古屋城との中間にあり、徒歩圏内に位置している。界隈には古い蔵や屋根神様の残る保存地区「四間道」があるなど歴史の残るまちである。商店街の中核的な取組として、円頓寺商店街と円頓寺本町商店街の共同イベントである「円頓寺七夕まつり」、フリーマーケット「ごえん市」、歴史・文化を感じることができる「円頓寺秋のバリ祭」などが行われている。